

経田歴史ウォーク 里編

① 天王寺

平安時代、現在の天王団地の辺りに天王寺という天台宗の大寺があったと伝えられています。この境内に柳枝社(現仏田)や日枝社(山王社、現坂ノ下)など4社があったといわれています。

経田は大きな寺社町であったことが伺えます。

② 鍛冶屋田

古代の経田には鍛冶屋集団があり、官の武器を造っていたとして、その集団への支給田であった可能性があります。

「錨の溝」の海岸砂地には昔から黒々とした砂鉄が多く見られました。

③ 大徳寺

立山を開山した佐伯有頼が建立した慈興寺が前身です。

のち天台宗となり、さらに13世紀末、本願寺三代覚如上人のとき、浄土真宗に帰依し法蓮坊の号を頂きました。さらに1533年に大徳寺と改めました。有頼の父、有若が開祖です。



④ 立石神社

嘉暦2年(1327)片貝川大洪水により尾崎村が東西に分断され、その百年後の寛正年間に創建と伝えられています。



⑤ 渡し番小屋跡

北陸道に片貝橋が架けられたのは明治26年(1893)12月でした。

明治6年(1873)から26年までは、川原の流れごとに幅6尺(約1.82m)の仮橋を作り、旅人などを渡していました。その渡り賃を取る番小屋跡です。



⑥ 旧斎沢村 いつき さわむら

嘉暦2年(1327)まで、この一帯には斎沢村という大集落がありました。しかし、大雨による片貝川の大洪水により集落は壊滅してしまいました。片貝川が現在の位置になったのもこの時からです。



⑦ 有頼柳

有頼の父、佐伯有若(越中守)の館があった所と伝えられています。

有頼が立山を開いたとき、ここにあった伏山堂の権現様を立山山頂の峰本社にお移しました。

立山登拝のとき、この川原の石を持参すると、権現様が「ふる里の匂いがする」とお喜びになり、ご利益があるといわれています。



江蔵家阿弥陀仏

蓮如上人の頃、松の木に南無阿弥陀仏の称名仏がかかっており、それを寺に寄付した。盗人が盗み取ろうとしましたが足が動かなくなり、軸を捨てて逃げ去ったそうです。(幅6~7尺、縦2尺位)



伝法蓮坊跡

大徳寺は片貝川洪水のため、何度も寺地を移転しています。ここは13世紀末の法蓮坊と称したときの寺地と伝えられています。

平伝寺仏

昔、長次郎という魚の行商人がいました。魚を沢山入れた荷を背負い、売りに行くと、いつの間にか化け物たちに魚を奪われて困っていました。この釈迦仏を造ってお祈りしてからは化かされなくなりました。



桜並木

平成5~11年の堤防拡幅工事に合わせて、市が桜50本植栽等の桜づつみ事業を行いました。



富山 地方鉄道 経田駅

昭和11年(1936)に当時の富山電気鉄道の駅として開業。それまで使われていた石田港駅舎を解体移築した駅舎です。

